

## 平成26年度 総合技術監理部門 口答試験内容復元

日時：平成27年1月17日 10:40～10:58

場所：フォーラム8

\*試験官は50代の男性2名、（左）国家公務員と（右）コンサルタント役員  
と思われます。

10:40

あいさつ：2109●●FOO●● ●● ●●です。よろしくお願いします。

試験官（左）：緊張をしないでリラックスしてください。それでは始めます。

質問（左）：あなたの業務ではなじみがないと思うが、薬品などの流通販売に  
関する企業にアドバイスをする場合、どのようにしますか。

**自分の業務以外で切り出されて舞い上がった。**

回答：まず、品質管理についてチェックが出来る体制づくりをアドバイスしま  
す。製品に不具合などがあった場合、損害が大きいので、重点的にチェ  
ックできる体制と人材育成のための教育訓練が必要と考えます。

質問（左）：具体的にはどういうことですか。

回答：例えば、製品に問題があって副作用などが出るなどがわかっていた場合、  
販売員にその内容を説明できるリスクコミュニケーションが出来る人材  
を配置するなどが考えられます。化粧品の白斑問題などがありました。

質問（左）：そのほかのことについてはありませんか。

**5つの管理で社会環境管理の内容は厳しいかと判断した。**

回答：製品を管理し、情報を共有できる情報管理システムの構築が必要と考え  
ます。

質問（左）：こういった企業を想定しているのか。デパートなどか。

**意図がわからず。**

回答：量販店です。

質問（左）：どのようにそれらの情報を収集するのか。自社か他社か。

回答：自社の情報を収集します。出来れば他社の情報も必要です。

質問の主旨は、個人情報などの情報セキュリティの内容だったのかも。

質問（左）：（別な質問で）どのように勉強されているのか。

回答：インターネットや専門誌（道路協会誌など）です。

質問（右）：それでは私の方から質問します。

業務経歴の論文について説明してください。

回答：業務経歴の詳細ですか。（はい）

私は、平成17・18年度に市全域の橋梁耐震補強・補修計画の策定と橋梁点検計画とその指導を行いました。

経済性管理としては、品質・コスト・工期のバランスを調整し、緊急対策橋梁の優先順位の決定や予算の平準化を行いました。

情報管理として、橋梁点検の体制づくりから点検データの集積を行えるシステムを構築しました。

人的資源管理として、橋梁点検などについて職員に対する教育訓練を実施しました。

質問（右）：どのような背景があったのか。

回答：当時は、阪神大震災から10年経過しても耐震補強の遅れていると会計検査院から指摘されたこと、宮城県沖地震のリスクが高まっていたこと、また、保有橋梁の老朽化による損傷が激しかったことなどが挙げられます。

質問（右）：保有橋梁は何橋ですか。

回答：現在は、1,121橋です。当時は、1,095橋で市町村合併などから現在は増加しています。

質問（右）：点検の計画について説明してください。

回答：緊急対応橋梁52橋は専門業者に委託し詳細点検をしました。そのほかの橋梁は予算がないので直営点検を行い、約1000橋を5年で点検する計画としました。1年200橋の点検です。  
直営点検については、県、NPO団体の支援をいただきました。

試験官（右）のフォロー：コストと人材のバランスを調整したのですね。  
（はい）

質問（左）：あなたが経験したなかで一番苦勞した業務は何か。

業務経歴のほかにすべきか迷ったが、一番苦勞した業務なので

回答：やはり業務の詳細論文で記述した橋梁補修や点検業務です。  
これは今までに無い事業であり、組織づくりなどに苦勞しました。  
（別な業務で説明すべきだった。震災以降の業務の方がリソース不足）

質問（右）：論文の中で社会環境管理は何をしたのか。

回答：橋梁の長寿命化が出来れば更新時期は集中しないので、産業廃棄物の低減につながると考え実施しました。

質問（右）：長寿命化とは。

回答：橋梁の弱点となる端部、水まわりや橋脚の段落とし部などを補強して耐用年数を延ばします。ライフサイクルコストの縮減と考えます。  
（経営に関する説明不足 人材育成や設備投資、アセットマネジメント導入など、新規建設のメンテナンスフリーもあった）

質問（右）：意地悪な質問かも知れないが、今後、近接目視が必須となるが、直営点検をどうするのか。

回答：職員の転落事故などを考えれば、リスク回避をおこなうため、業務委託を考えます。（コスト増加のトレードオフに触れず）

試験官（右）ほかに質問はありませんか。以上で口頭試験を終わります。

あいさつ：どうもありがとうございました。

終了10:58

#### 反省点・感想

- ・ 前半は、試験官の質問の意図が理解できず、話しかみ合わなかった。  
試験官は、応用能力を確認するため順番を変え、これまでに無い質問を行った模様である。もっと違う質問があったのだが思い出せず。
- ・ 後半は、個別専門技術の説明に終始してしまい、総監の視点での説明が不足していた。
- ・ 自分の用意していた内容の半分も出せなかった。はっきり話せず注意された。